

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通調査事業等)

平成 年 月 日

協議会・構成員 弥富市地域公共交通活性化協議会

事業名	調査事業の結果概要	調査事業実施の適切性	生活交通ネットワーク計画等の計画策定に向けた方針
記載要領	【事業内容及び結果概要を記載】	A・B・C 評価	【生活交通ネットワーク計画等の計画策定に向けた方針(補助申請を行う補助対象事業名、事業内容、実施時期等を記載)】
弥富市生活交通ネットワーク計画策定調査事業	【地域概況・公共交通利用状況等調査】 ・経年的に乗車人員、1便当たり乗車人員が増加 ・バス相互での乗り換えは少ない ・「総合福祉センター」「イオンタウン」「近鉄弥富駅南口」の利用が多い ・朝夕の時間帯の利用が比較的少ない ・利用者は7割が65歳以上で、「公共施設利用」「買い物」目的の利用が多い 【住民及び利用者ニーズ把握調査】 ・(住民)日常は自動車利用が非常に多い ・(住民)目的地は弥富市内や名古屋市内が多い ・(企業)バス利用の場合に利便性の高い駅は、地下鉄名古屋港駅、近鉄弥富駅、近鉄蟹江駅 ・(企業)企業におけるバス利用意識は低い ・(運行方法)現在のきんちゃんバスの運行方法が良いと考えている人が多い 【地域公共交通に関する課題の整理】 ・ニーズに即した運行改善が必要 ・積極的なPR、利用促進が必要 ・地域で守り育てる体制の検討が必要 【生活交通ネットワーク計画策定】 ・周辺自治体との連携による乗り継ぎ改善 ・ニーズに即したダイヤの見直し ・中・長期的な視点での新たな運行方法の導入検討と適切な大きさの車両導入 ・周知・利用促進活動の積極的展開	A 計画通り、モニタリング調査(住民アンケート、企業アンケート)やバス停乗降者数調査(OD調査)を実施し、できる限り利用実態や住民ニーズの把握に努めた。また、協議会も計4回開催しており、適切に実施している。	●平成25年度、地域内フィーダー系統確保維持改善事業費国庫補助金の申請を予定 【事業内容】 ●周辺自治体との連携による乗り継ぎ改善 →飛島公共交通バスや木曽岬町自主運行バスと連携し、より利便性の高い乗り継ぎダイヤへと改正する ●新たな運行方法の導入検討と適切な大きさの車両導入 →利用の少ないルートへの予約制運行等の新たな運行方法について、中・長期的な視点での導入を検討 →新たな運行方法を導入する場合など、タクシー車両の有効活用や、更新時期に合わせたワゴン車の導入など、利用実態に即した適切な大きさの車両の導入を検討 ●ニーズに即したダイヤの見直し →特に利用の少ない時間帯の便の削減検討 ●周知・利用促進活動の積極的展開 →これまでに実施してきた無料お試し乗車券の配布やサイクル&バスライド駐輪場、シルバーパス等の利用促進策や周知活動を継続的に実施 →近鉄弥富駅や佐古木駅等へのバス情報の掲示など、鉄道事業者との連携した利用促進策の展開

【各評価項目の評価基準】

事業実施の適切性

- A…事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された(されている)。
 B…事業が計画に位置づけられたとおりに実施されていない点があった(一部実施されない見込み)。
 C…事業が計画に位置づけられたとおりに実施されなかった(実施されない見込み)。

具体的取り組みに対する評価

- 利用状況の把握やモニタリング調査(住民アンケート、企業アンケート)のほか、バス乗降者数調査(OD調査)や、全戸配布した無料お試し乗車券、運行方法に関するアンケートでも、利用目的や頻度などの利用実態が把握できるような設問を追加するなど、より多くの情報を収集し、連携計画における目標(市内バス運行の改善・充実、高齢者等の移動制約者の交通手段を確保など)を達成するために、より利便性の高いバスへの改善方策を検討およびネットワーク計画の策定に必要な基礎資料としての調査ができた。
- 連携計画にも位置づけられている「周辺自治体の公共交通との連携」について、バス乗降者数調査(OD調査)の結果より、乗り継ぎ利用者が少ないことが判明したことから、より利便性の高い乗り継ぎダイヤ等の検討が必要である。
- 定期券やシルバーパスの発行、サイクル&バスライド駐輪場の設置のほか、無料お試し乗車券を配布するなど、利用促進策の展開や潜在的需要の掘り起こしを行っており、経年的に利用者は増加傾向となっていることから、これらの活動を継続的に実施して行く必要がある。

アピールポイント(特に工夫した点)

- バス乗降者数調査(OD調査)は、できる限り多くのサンプルを得ることが望ましいため、調査期間をできる限り長く確保することが必要と考えた。しかし、運行便数等を踏まえると、調査員を配置した場合には、費用的な面からも2~3日程度しか調査日を確保できない。そこで、比較的低予算で実施でき、調査対象となる利用者の負担も低減されと考えられる、シールを所定の位置に貼る形式を採用した。その結果、調査期間を2週間確保でき、回収数も2,898人と、乗車実績(2,978人)に対し97.3%の回収を得ることができた。

生活交通ネットワーク計画の策定に向けた方針等

- 平成26年度、地域内フィーダー系統確保維持改善事業費国庫補助金の申請を予定

【事業内容】

- 周辺自治体との連携による乗り継ぎ改善
 - 飛島公共交通バスや木曽岬町自主運行バスと連携し、より利便性の高い乗り継ぎダイヤへと改正する
- 新たな運行方法の導入検討と適切な大きさの車両導入
 - 利用の少ないルートへの予約制運行等の新たな運行方法について、中・長期的な視点での導入を検討
 - 新たな運行方法を導入する場合など、タクシー車両の有効活用や、更新時期に合わせたワゴン車の導入など、利用実態に即した適切な大きさの車両の導入を検討
- ニーズに即したダイヤの見直し
 - 特に利用の少ない時間帯の便の削減検討
- 周知・利用促進活動の積極的展開
 - これまでに実施してきた無料お試し乗車券の配布やサイクル&バスライド駐輪場、シルバーパス等の利用促進策や周知活動を継続的に実施
 - 近鉄弥富駅や佐古木駅等へのバス情報の掲示など、鉄道事業者との連携した利用促進策の展開

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

平成 年 月 日

協議会・構成員 弥富市地域公共交通活性化協議会

事業名	補助対象事業者等	事業概要	①事業実施の適切性	②目標・効果達成状況	③事業の今後の改善点
記載要領	【事業者名及び系統名・航(空)路名・施設名等を記載】 ※評価は運行系統、離島航(空)路、施設等の別ごとに実施すること	【運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両原価償却費等国庫補助金の交付を受けている場合は、その旨を記載)】	【計画に位置付けられた事業が適切に実施された(されている)かを記載。計画どおり実施されなかった(されていない)場合には、理由等記載】 A ・ B ・ C ・ 評価 記載例①: 計画どおり事業は適切に実施された。 記載例②: 災害により運航できない期間があったが、事業は概ね適切に実施された。	【計画に記載した定量的な目標数値と結果を記載する。結果が目標を達成できなかった場合は理由等を分析の上記載】 A ・ B ・ C ・ 評価 記載例①(確保維持事業): 目標30人/日に対して、15人/日であった。(目標を下回った理由等を併せて記載) 記載例②(改善事業): 年間利用者1,000人の利便性の向上が図れた。	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載(改善点は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載すること)】 ※ なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨を記載
陸上交通に係る 地域公共交通確保維持事業 (地域内フィーダー系統)	弥富市生活交通ネットワーク計画	弥富市内を巡回する3路線(北部ルート、東部ルート、南部ルート)を運行し、各ルートとも近鉄弥富駅やイオンタウン、総合福祉センター等の主要な施設にアクセス。また、東部ルートは飛島公共交通バス蟹江線と一部バス停を共有。	A 計画通り、モニタリング調査(住民アンケート、企業アンケート)を実施し、できる限り利用実態や住民ニーズの把握に努めた。また、協議会を計4回開催するとともに、広報誌や市HPで調査結果の情報提供に努めており、適切に実施している。	B 【総合的満足度の向上】 ・住民アンケートによる総合的満足度の前年度からの向上を目標としていたが、満足度は低下 ⇒33.3%⇒21.6% (「非常に良い」「やや良い」の割合) (考えられる理由)H24年4月1日から朝・夕の減便や日曜日・祝日の運休といったダイヤ改正を行っており、個別項目の満足度評価においても、運行便数や始発・終バス時間に対する評価の低下が大きい。 【1便当たり乗車人員数の増加】 ・全ルートの1便当たり乗車人員数の前年度からの増加を目標としていたが、全ルートで増加 ⇒全 体:4.8人/便⇒7.0人/便 ⇒北部ルート:3.3人/便⇒4.9人/便 ⇒南部ルート:7.8人/便⇒9.4人/便 ⇒東部ルート:2.9人/便⇒6.1人/便	【事業の今後の改善点】 ●周辺自治体との連携による乗り継ぎ改善 →飛島公共交通バスや木曽岬町自主運行バスと連携し、より利便性の高い乗り継ぎダイヤへと改正する ●中・長期的な視点での新たな運行方法の導入検討と適切な大きさの車両導入 →利用の少ないルートへの予約制運行等の新たな運行方法について、中・長期的な視点での導入を検討 →新たな運行方法を導入する場合など、タクシー車両の有効活用や、更新時期に合わせたワゴン車の導入など、利用実態に即した適切な大きさの車両の導入を検討 ●ニーズに即したダイヤの見直し →特に利用の少ない時間帯の便の削減検討 ●周知・利用促進活動の積極的展開 →これまでに実施してきた利用促進・周知活動を継続的に実施 →鉄道事業者と連携した周知活動 等 【目標】 ・総合的満足度の向上 ・1便当たり乗車人員数の増加 ・(新規目標)サイクル&バスライドやシルバーバス、定期券等の利用促進策の認知度50%以上(住民アンケート)

【各評価項目の評価基準】

①事業実施の適切性

- A…事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された(されている)。
- B…事業が計画に位置づけられたとおりに実施されていない点があった(一部実施されない見込み)。
- C…事業が計画に位置づけられたとおりに実施されなかった(実施されない見込み)。

②目標・効果達成状況

- A…事業が計画に位置づけられた目標を達成した(する見込み)。
- B…事業が計画に位置づけられた目標を達成できていない点があった(一部達成できない見込み)。
- C…事業が計画に位置づけられた目標を達成できなかった(達成できない見込み)。

弥富市地域公共交通活性化協議会

平成21年7月10日設置

フィーダー系統

平成24年6月28日NW計画策定

①協議会が目指す方向性(Plan)

地域の特徴

●市内の公共交通

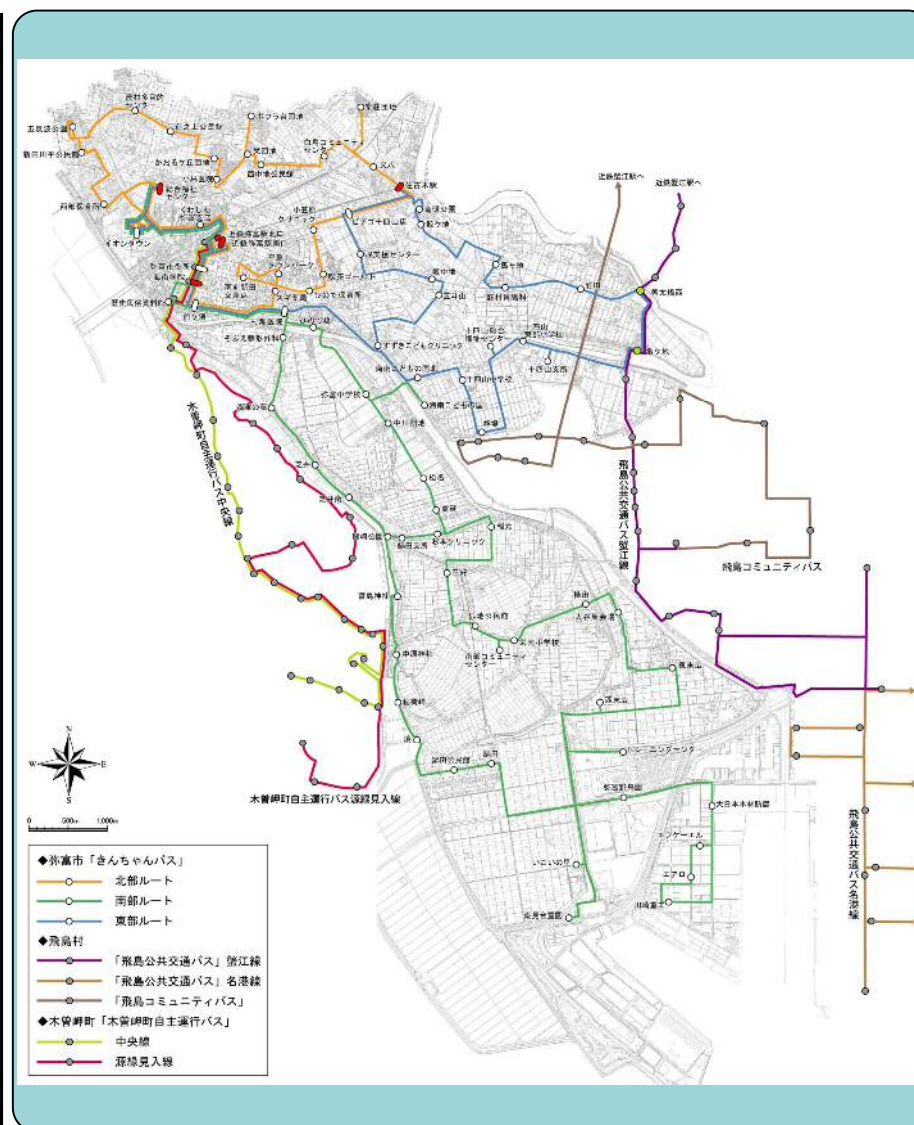
- ・JR関西本線（JR弥富駅）、近鉄名古屋本線（近鉄弥富駅、佐古木駅）が東西に横断し、名鉄尾西線（名鉄弥富駅、五之三駅）が北進しているが、大部分の公共交通サービスはバスが担う。

●市内のバス交通の歴史

- ・H11.1 無料巡回福祉バス運行開始（60歳以上）
- ・H11.4 無料巡回福祉バスの年齢制限を撤廃
- ・H14.2 市内を運行する路線バス3系統廃止
- ・H17.3 近鉄弥富駅と蟹江駅とを結ぶ路線バスについて、弥富市内の区間を廃止
- ・H17.6 無料巡回福祉バスを近鉄弥富駅まで延伸
- ・H18.4 十四山村との合併に伴い、十四山地区での無料巡回福祉バスの運行開始
- ・H21.7 「弥富市地域公共交通活性化協議会」発足
- ・H22.3 「弥富市地域公共交通総合連携計画」策定
⇒市内バス運行の改善・充実、高齢者等の移動制約者の交通手段を確保
- ・H22.6 無料巡回福祉バス廃止、コミュニティバス実証運行開始
- ・H24.4 実証運行を終了し、本格運行へと移行

総合計画・都市計画マスタープランにおけるバスの位置づけ

- 市民の日々の暮らしにおける移動手段としての利便性向上はもとより、地球温暖化の抑制に向けたCO2の削減、高齢者等の外出機会の支援なども見据え、地域公共交通サービスの充実を図るものとし、効率的かつ適正な運行体制を検討し、利用者サービスの向上や運行ルートの充実に努める。



②地域公共交通に関する具体的取り組み及びそのプロセス(Do)

平成23年度

- 利用者実態調査、モニタリング調査の実施
- 無料お試し乗車券の配布
- サイクル&バスライド駐輪場の設置検討
- 運行改善方策の検討 等

弥富市地域公共交通活性化協議会(計4回開催)

平成24年度

平成24年4月 1日 **新ダイヤでの運行開始** … ①日曜日・祝日の運休 ②朝・夕時間帯の減便 ③イオンタウンへのアクセス改善
サイクル&バスライド駐輪場運用開始 … 4箇所(鍋田支所、南部コミュニティセンター、十四山支所、十四山総合福祉センター)

平成24年6月28日 **第1回弥富市地域公共交通活性化協議会**
 ①利用者実態調査(バス停乗降車数調査)実施内容・時期
 ②モニタリング調査(住民・企業アンケート)実施内容・時期 ③ 無料お試し乗車券実施内容・時期 等

平成24年7月30日～9月30日 **無料お試し乗車券の配布** … 7・8月広報にて利用促進を呼びかけ、8月広報と一緒に全戸配布
 利用条件:無料お試し乗車券裏面のアンケート回答 ⇒利用1,155枚

平成24年8月 3日～8月20日 **モニタリング調査実施** … ①住民アンケート:15歳以上無作為2,000名、区長会34名、福寿会10名、女性の会13名
 ⇒回収830名(回収率40.4%)
 ②企業アンケート:西部臨海部132社 ⇒回収49社(回収率37.1%)

平成24年9月 3日～9月15日 **バス停乗降者数調査実施** … 期間中に運行する全便で実施(利用者にアンケートを兼ねたシールタイプの調査票を配布)
 ⇒回収2,898人(乗車実績(2,978人)に対する回収率97.3%) ※OD調査

平成24年10月9日～10月26日 **運行方法に関するアンケート実施** … 北部・東部ルート沿道住民1,000人及び北部・東部ルート利用者
 ⇒回収559人 ※予約制運行の導入に関するアンケート

平成24年11月13日 **第2回弥富市地域公共交通活性化協議会**
 ①各種調査結果 ②周辺自治体バスとの乗り継ぎダイヤの状況 ③問題点・課題 等

平成25年 2月 5日 **第3回弥富市地域公共交通活性化協議会**
 ①乗車実績の状況 ②収支(運行経費・収入)、無料パスカード発行、福祉タクシーの状況 ③運行改善方策の検討(案) 等

平成25年 3月27日 **第4回弥富市地域公共交通活性化協議会**
 ①運行改善方策の検討(案) ②事後・自己評価 ③次年度事業計画 等(予定)

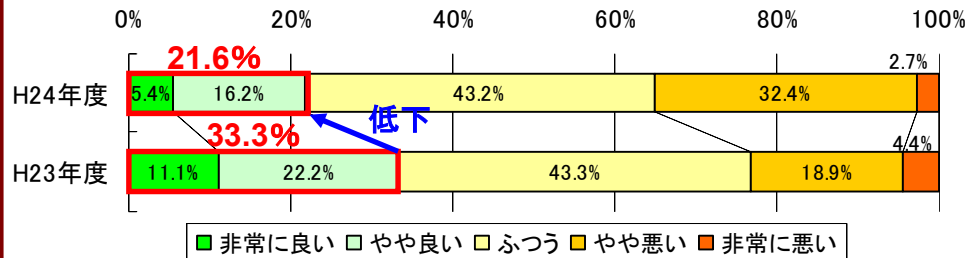
※NW計画の事業年に合わせ、検討結果を踏まえたダイヤや運行形態の改善を10月に実施予定

③地域公共交通に関する具体的取り組みに対する評価(Check)

NW計画における目標

①総合的満足度の向上

【目標】住民アンケートにおける総合的な満足度のうち、非常に良い、やや良いの割合について H23年度を上回る



②1便当たり乗車人員数の増加

→各ルートの1便当たり乗車人員数についてH23年度を上回る

	H22年度 (H22.6.21～)	H23年度	H24年度 (～H24.12.31)	H23年度から H24年度への増減
全体	3.7	4.8	7.0	+2.2
北部ルート	2.7	3.3	4.9	+1.6
南部ルート	6.1	7.8	9.4	+1.6
東部ルート	1.4	2.9	6.1	+3.3
平日	3.9	4.9	6.8	+1.9
北部ルート	2.8	3.3	4.8	+1.4
南部ルート	6.4	8.0	9.1	+1.1
東部ルート	1.6	2.9	5.8	+2.9
休日	3.1	4.4	8.4	+3.9
北部ルート	2.4	3.0	5.5	+2.5
南部ルート	5.3	7.2	11.9	+4.7
東部ルート	0.9	2.8	8.2	+5.4

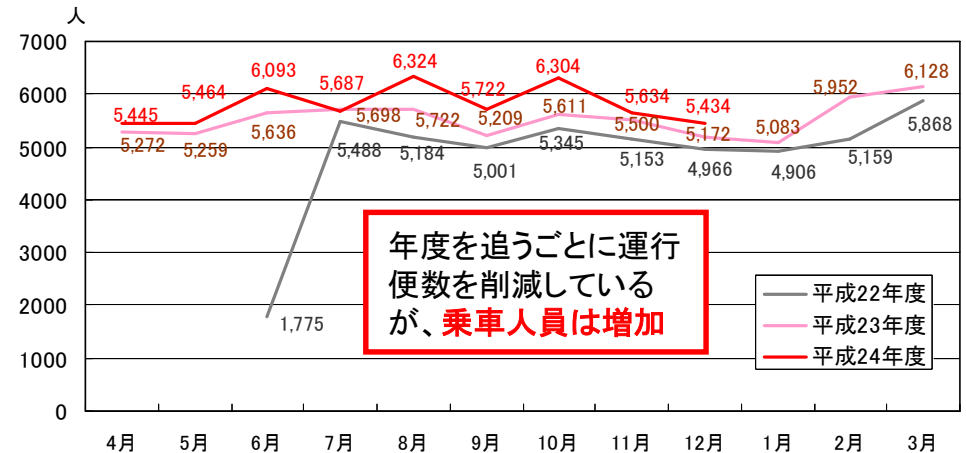
	運行便数(便/日)		
	H22年度	H23年度	H24年度
平日	51	43	35
北部ルート	22	20	15
南部ルート	19	15	15
東部ルート	10	8	5

	運行便数(便/日)		
	H22年度	H23年度	H24年度
休日	37	29	26
北部ルート	16	14	12
南部ルート	13	10	10
東部ルート	8	5	4

全ルート
増加

※H24年度より
日曜日・祝日運休

③乗車人員の推移



④その他

●朝・夕の時間帯の利用が比較的少ない

→利用者の多くは高齢者で、利用目的は公共施設利用や買い物が多い

※乗車実績、バス停乗降者数調査より

●周辺自治体が運行するバスへの乗り換え利用は少ない

→調査期間(2週間)で、木曽岬町自主運行バスや、南部ルートと飛島公共交通バス蟹江線との乗り継ぎは多少見られるが、バス停を共有する東部ルートと蟹江線との乗り継ぎがない。 ※バス停乗降者数調査より

●きんちゃんバスを利用しない理由としては「便数が少ない」「ルートが合わない」「移動に時間がかかる」が多い

→「バスや鉄道への乗り継ぎが不便」とする理由は少ない ※住民アンケートより

●利用者の評価は「便数」「始発・終発時刻」「所要時間」が特に低い

→昨年度も同様の項目の評価が低かったが、今年度は特に低い ※住民アンケートより

●サイクル&バスライド駐輪場の認知度が低い

→きんちゃんバス利用者のうち約6割が知らない(無回答を除く) ※住民アンケートより

●企業におけるバス利用意識が低い

→バスの必要性を感じているのは約4分の1しかなく、運行便数への改善要望が多い
→通勤にバスを利用する場合に利便性の高い駅としては、名古屋港方面への駅や近鉄弥富駅、近鉄蟹江駅が多い ※企業アンケートより

④自己評価から得られた課題とその対応(Action)

ニーズに即した運行改善が必要

- ・利用者は増加しているものの、依然、利用が少ない時間帯やルートがあることから、地域特性等を加味したさらなる効率的な改善が必要
- ・乗り継ぎバス停や西部臨海部の事業所の実態を踏まえ、周辺自治体との連携を視野に入れた運行改善の検討が必要

継続的なPR、利用促進が必要

- ・利用は増加しているが、現在展開している施策の周知のほか、コミュニティバスの果たす役割やメリットについて啓発し、さらなる利用促進を図ることが必要
- ・鉄道(近鉄)、福祉センター、イオン利用者などターゲットを明確にした利用促進活動の検討が必要

地域で守り育てる体制の展開の検討が必要

- ・商業施設や病院、企業による協力、地域におけるサポートの継続的展開の検討が必要
- ・利用は増加しているが、財政的には厳しい状況は変わらないため、存続に対する危機感を共有する場の創出の検討が必要

周辺自治体との連携による乗り継ぎ改善

- ・弥富市周辺を運行する飛鳥公共交通バス蟹江線や木曾岬町自主運行バスと連携し、乗り継ぎの改善を検討
- ・通勤需要に対応し、名古屋市内へも運行している飛鳥コミュニティバス名港線との乗り継ぎや、西部臨海部への相互乗り入れなどを検討

中・長期的な視点での新たな運行方法の導入検討と適切な大きさの車両導入

- ・利用の少ないルートへの予約制運行等の新たな運行方法について、中・長期的な視点での導入を検討
- ・新たな運行方法を導入する場合など、タクシー車両の有効活用や、更新時期に合わせたワゴン車の導入など、利用実態に即した適切な大きさの車両の導入を検討

ニーズに即したダイヤの見直し

- ・特に利用の少ない時間帯の便の削減検討

周知・利用促進活動の積極的展開

- ・利用機会を創出するためのお試し乗車券配布を定期的の実施
- ・自治会の会合等に対し、現状を知り危機感を共有する機会の創出と継続的な実施
- ・サイクル&バスライドやシルバーパス、定期券等の利用促進策についての周知活動の継続的実施
- ・鉄道駅、福祉センター、イオンなどにおけるコミュニティバスPR活動の継続的展開
- ・鉄道時刻表や駅へのきんちゃんバス情報記載など鉄道事業者への協力依頼 等

⑤アピールポイント(特に工夫した点)

無料お試し乗車券の配布による利用のきっかけづくり

- 新たな利用者を掘り起こすことを主な目的とし、きんちゃんバスに乗ったことの無い人が、一度の利用経験を通じて、きんちゃんバスを持続的に利用するきっかけとなることを期待し無料お試し乗車券を配布

- 利用条件を「アンケートへの回答」とすることにより、無料お試し乗車券の効果を検証

→属性、これまでのきんちゃんバスの利用の有無、無料お試し乗車券の利用回数、利用目的等を把握

無料お試し乗車券による効果

- これまでにきんちゃんバスを利用したことがなく、無料お試し乗車券を初めて使った人は・・・133人(新規利用者)

→新規利用者の利用目的は「買い物・外食・娯楽」「公共施設への用事・利用」が多い

